境港湾現地視察会

令和 7年 10月17日

中国地方整備局

境港湾・空港整備事務所

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

境港の概要

境港は昭和26年に重要港湾に指定され、平成23年には日本海側拠点港湾に選定された。境港の背後圏には製紙工場や合板製造工場が立地し、その原料となる木材チップや原木は境港を輸入拠点とし、製造した製品はコンテナ貨物として境港から輸出されている。また、隠岐諸島と結ぶ定期フェリーも就航しており、離島住民の生活を支えている。更に、令和2年には、大型クルーズ船の受入にも対応した外港竹内南地区貨客船ターミナルが供用を開始するなど、山陰地域における物流・人流拠点として重要な役割を担っている。

江島地区

＜主な取扱貨物＞
バルク貨物（移入：原木）
江島1号岸壁（水深9.0m）
江島2号岸壁（水深7.5m）

江島大橋
（ベタ踏み坂）

内港地区

フェリー　隠岐諸島
内港4号岸壁（水深6.5m）

外港中野地区

＜主な取扱貨物＞
バルク貨物（輸入：原木）
中野岸壁（水深12.0m）

外港竹内南地区

国際フェリー
大型クルーズ船
竹内南1号岸壁（水深10.0m）

外港昭和北地区

官民連携による総合物流ターミナル（計画）
高度衛生管理型市場

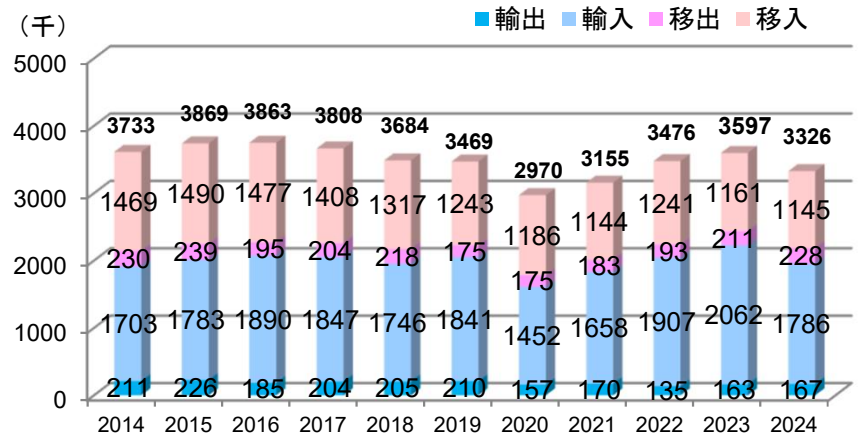
外港昭和南地区

＜主な取扱貨物＞
コンテナ貨物（輸出：紙・パルプ、輸入：鉄鋼）
バルク貨物（輸入：木材チップ、バイオマス燃料）
昭和南1号岸壁（水深13.0m）
昭和南2号岸壁（水深10.0m）
昭和南3号岸壁（水深7.5m）
昭和南4号岸壁（水深14.0m）

境港の利用状況

○ 境港における主な取扱貨物は、木材チップや再利用資材の輸入、石油製品・セメントの移入である。
○ また、輸出では、紙・パルプ、木製品が多い。
○全体取扱貨物量、コンテナ取扱貨物量ともに横ばい傾向であるが、近隣のバイオマス発電所が2022年からの稼働を開始したことで、バイオマス燃料（PKS、木質ペレット）が増加している。

全体取扱貨物量

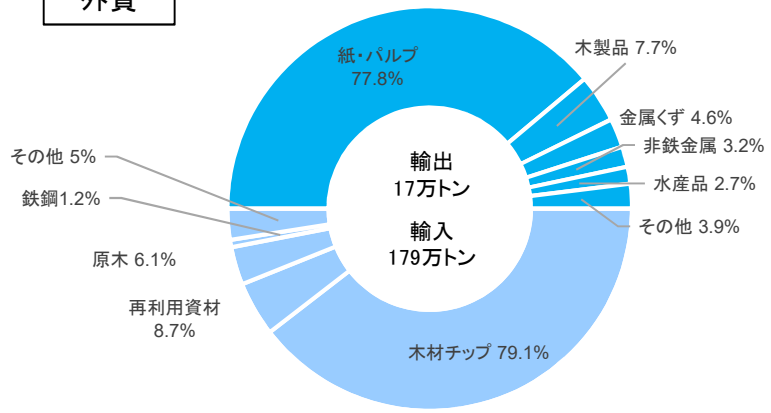


コンテナ取扱貨物量

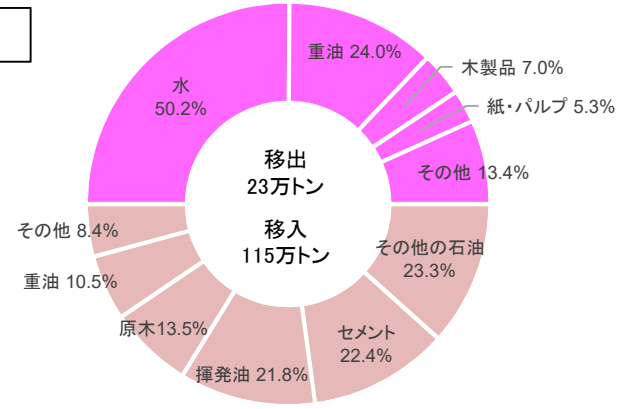
出典：境港管理組合HP

取扱貨物の内訳（2024年）

外貿

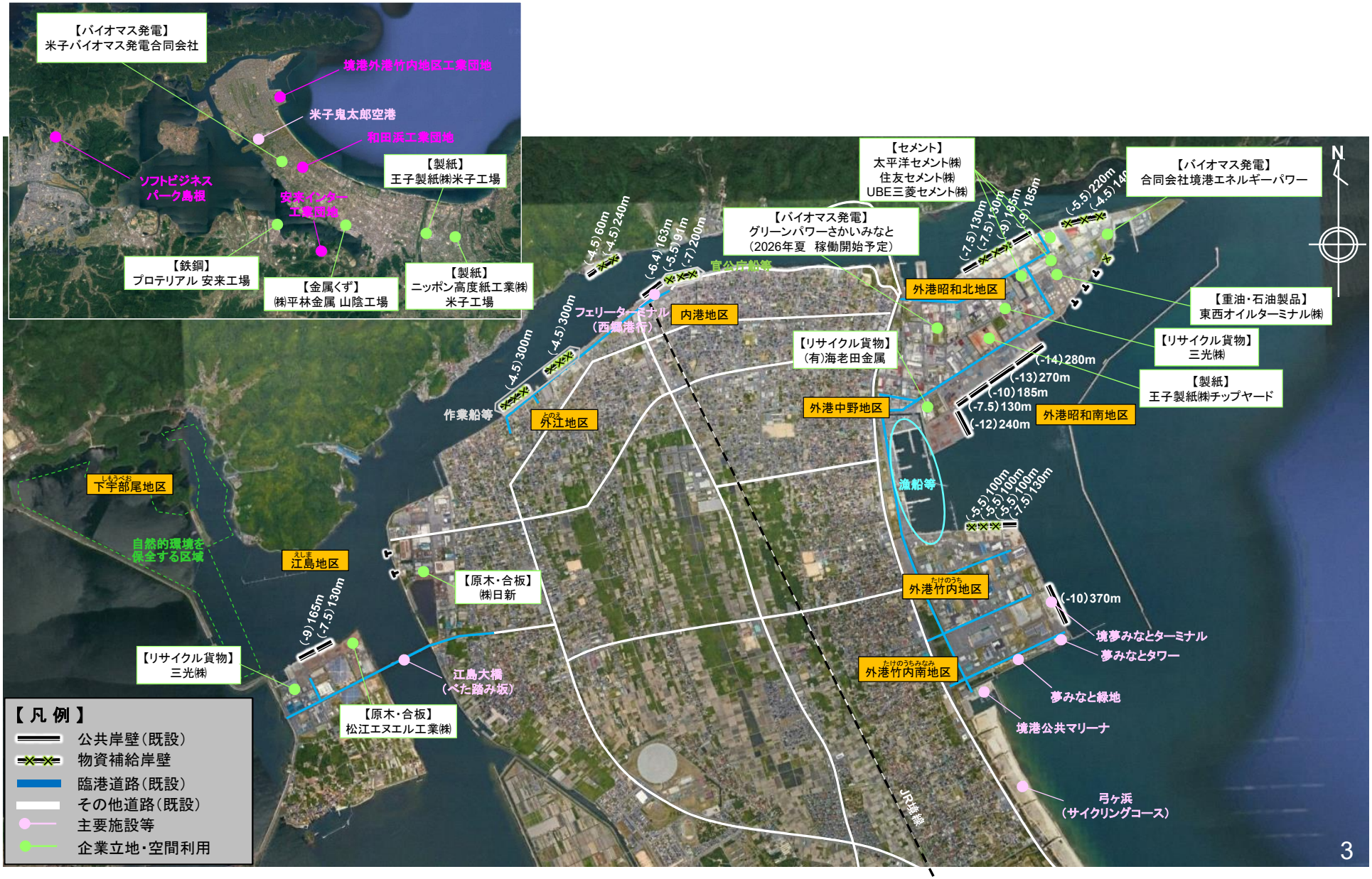


内貿



出典：港湾管理者提供資料

境港の企業立地


【バイオマス発電】
米子バイオマス発電合同会社
境港外港竹内地区工業団地
米子鬼太郎空港
和田浜工業団地
【製紙】
王子製紙㈱米子工場
ソフトビジネスパーク島根
安来インター工業団地
【鉄鋼】
プロテリアル 安来工場
【金属くず】
㈱平林金属 山陰工場
【製紙】
ニッポン高度紙工業㈱
米子工場
【セメント】
太平洋セメント㈱
住友セメント㈱
UBE三菱セメント㈱
【バイオマス発電】
合同会社境港エネルギーパワー
【バイオマス発電】
グリーンパワーさかいみなと
（2026年夏　稼働開始予定）
官公庁船等
フェリーターミナル
（西郷港行）
内港地区
外港昭和北地区
【重油・石油製品】
東西オイルターミナル㈱
【リサイクル貨物】
三光㈱
【リサイクル貨物】
(有)海老田金属
【製紙】
王子製紙㈱チップヤード
外港中野地区
外港昭和南地区
作業船等
外江地区
漁船等
下宇部尾地区
自然的環境を保全する区域
江島地区
【原木・合板】
㈱日新
外港竹内地区
境夢みなとターミナル
夢みなとタワー
外港竹内南地区
夢みなと緑地
境港公共マリーナ
【リサイクル貨物】
三光㈱
江島大橋
（べた踏み坂）
【原木・合板】
松江エヌエル工業㈱
弓ヶ浜
（サイクリングコース）
JR境線
N
【凡例】
公共岸壁（既設）
物資補給岸壁
臨港道路（既設）
その他道路（既設）
主要施設等
企業立地・空間利用

3

境港港湾計画の概要

令和3年7月港湾計画改訂

境港事業実施箇所図

直轄施設の事業期間

施設名称	事業期間		
【昭和南地区】			
1号岸壁(−13m)	S53d	～	S58d
2号岸壁(−10m)	S53d	～	S58d
3号岸壁(−7.5m)	S61d	～	H7d
4号岸壁(−14m)	H8d	～	H15d
【中野地区】			
1号岸壁(−12m)	H24d	～	H28d
【竹内南地区】			
1号岸壁(-10m)	H28d	～	R1d
【外港地区】			
第二防波堤	S43d	～	R4d
【江島地区】			
臨港道路	H9d	～	H16d

境港ふ頭再編改良事業の概要

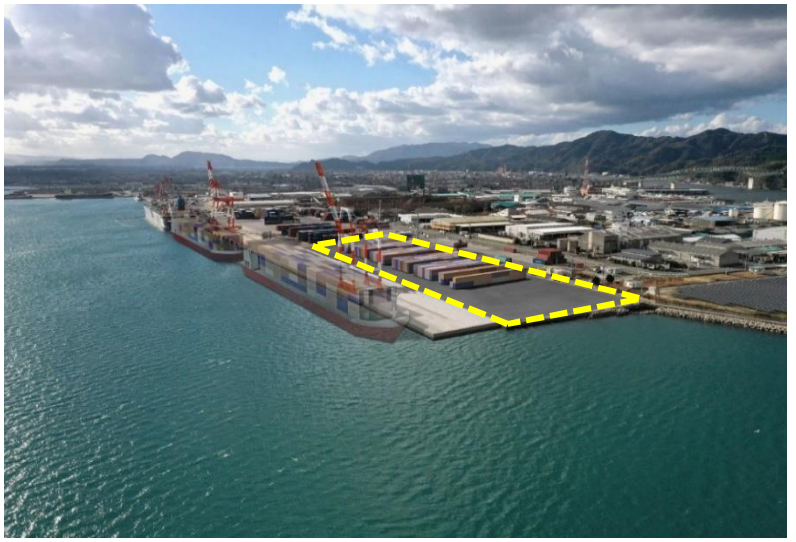
地域の経済活動を支える安定的な輸送網の構築、サプライチェーンの強靱化、大型船舶による輸送効率化を図るため、境港外港昭和南地区において国際物流ターミナルを整備する。

【整備施設】
岸壁(水深12m)(耐震)、泊地(水深12m)、ふ頭用地

【事業期間】
令和7年度～令和10年代半ば（早期の便益発現を目指す）

【総事業費】
202億円（うち港湾整備事業費172億円）

整備前　イメージパース図



整備後　イメージパース図

境港におけるブルーインフラ実証実験 ①

背景

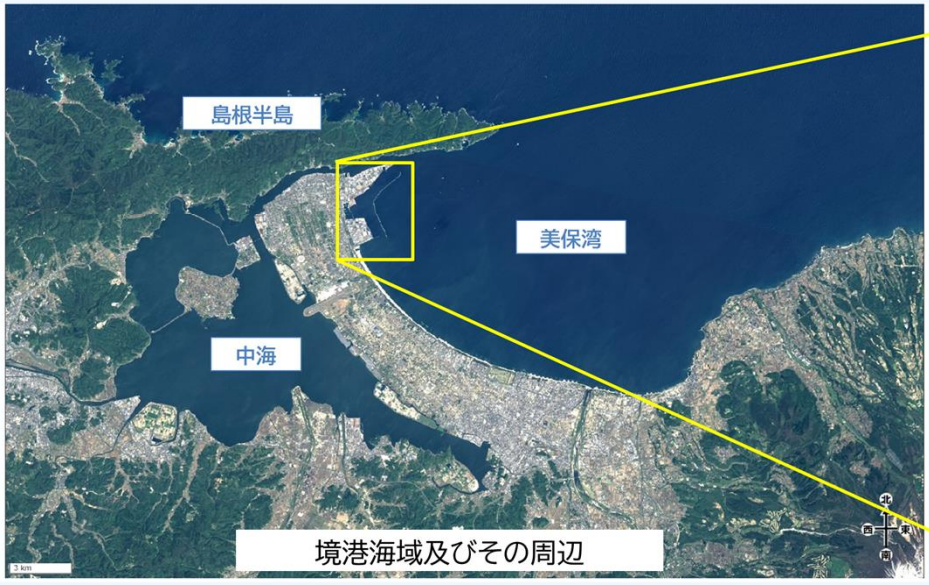
○喫緊の課題となっている地球温暖化対策に向け、国は2050年までにカーボンニュートラルを目指しています。

○国土交通省港湾局においても、藻場・干潟等及び生物共生型港湾構造物を「ブルーインフラ」と位置づけ、二酸化炭素吸収源の拡大によるカーボンニュートラルの実現への貢献や生物多様性による豊かな海の実現に取り組んでいます。

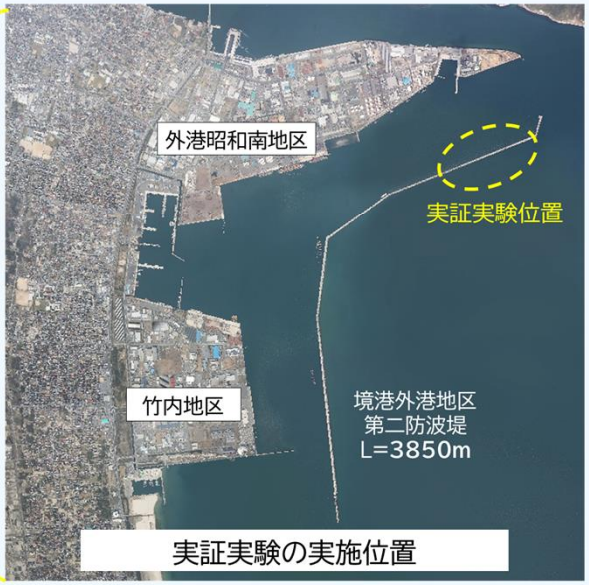
目的及び実証実験位置

○美保湾内に位置する境港の外港地区第二防波堤は、令和4年度に全延長3,850mが完成しましたが、昭和43年度の整備着手から50年以上が経過しており、最新の施設点検においては、防波堤のコンクリートの劣化損傷等が一部で確認されています。

○今後は、防波堤の老朽化が確認された区間において補修・補強の工事を行い防波堤としての機能を維持するとともに、海藻や生き物がより生息しやすい防波堤の構造を検討するために、現地海域において実証実験を行います。



境港海域及びその周辺



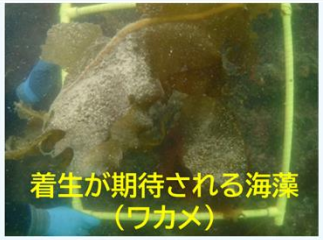
実証実験の実施位置

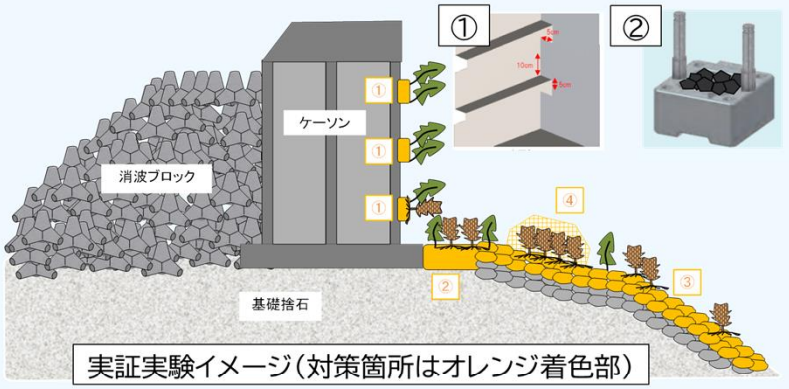
境港におけるブルーインフラ実証実験 ②

実証実験の内容

○実証実験では、海藻の増殖機能を強化する対策技術を防波堤に設置(ケーソン壁面、根元、被覆石等)し、海藻の着生・成長の効果検証を行います。

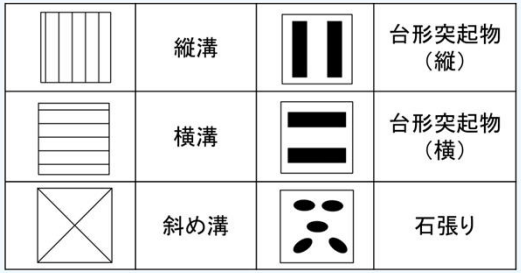
対策箇所		対策技術	期待する効果
①	ケーソン壁面	生物共生パネル設置(1m×1m)	海藻のタネの着生率促進
②	ケーソン根元	柱状型根固めブロック設置(3m×3m)	ウニ類による海藻の食害影響の低減
③	被覆石	被覆石嵩上げ	海藻の光環境の改善
④	被覆石上の海藻	海藻保護ネット設置	ウニ類及び魚類による海藻の食害影響の低減





実証実験イメージ(対策箇所はオレンジ着色部)

①生物共生パネルの種類(6パターン)



今後の予定

○ブルーインフラの実証実験の検討は、有識者や地元関係者等で構成される「境港における生物共生型港湾構造物に関する検討会を立ち上げ、議論してきました。
○実証実験は令和7年秋から開始し、令和7年以降に海藻着生等に関するモニタリングを3年程度行い、効果検証を行う予定です。

令和5～6年	令和7年春～秋		令和7年以降(3年間程度)	
ブルーインフラ実証実験の検討	ブルーインフラ実証実験場造成	ブルーインフラ実証実験の開始	モニタリング	効果検証

【参考】みなとオアシス境港

運営団体	みなとオアシス境港運営委員会
設置者	境港市
登録	平成25年6月27日
港湾管理者	境港管理組合
代表施設	境夢みなとターミナル、夢みなとタワー みなとさかい交流館

主な開催イベント

○おさかなロード大漁祭（４月）

○みなとまつり（７月）

○境港ペーロン大会（７月）

○ビーチバレーボール大会（７月）

【参考】令和6年みなとオアシスSea級グルメ全国大会in境港

Sea級グルメ全国大会とは

〇「みなとオアシス」が位置する地元の食材や、地元産品でつくられた“Sea”の要素を含む「Sea級グルメ」を全国各地から持ち寄り、食の大会を開催。（主催：全国みなとオアシス協議会）

〇中国地方においては、平成23年（第1回大会）は「みなとオアシス三原」、平成26年（第5回大会）は「みなとオアシス瀬戸田」、平成28年（第9回大会）は「みなとオアシス宇野」で開催された。

〇令和6年度は、「みなとオアシス境港」にて第15回Sea級グルメ全国大会が開催されました！！

◆出店者の記念撮影

◆会場賑わい状況

◆Sea級グルメの一例

元祖牛骨モサエビらーめん
（みなとオアシス境港）

アンコウとノドグロ焼売
（みなとオアシス浜田）

ホタテステーキ
（みなとオアシスもんべつ）

青森ホタテの酒蒸し
（みなとオアシスあおもり）

多幸のみ焼き
（みなとオアシス瀬戸田）

西ノ島さざえカレー
（みなとオアシスおき・にしのしま）

カジキのまご茶漬け
（みなとオアシス下田）

かき味噌焼きそば
（みなとオアシス広島）

令和6年11月9日・10日、「Sea級グルメ全国大会in境港」が境夢みなとターミナルにて開催され、32団体が出店し、5.6万人を超える来場者があり、大変賑わいました。

本大会のグランプリには、みなとオアシスもんべつの「ホタテステーキ」が昨年グランプリ受賞者の貫禄を見せ連覇。準グランプリも昨年に続き、みなとオアシス浜田の「アンコウとノドグロ焼売」が2年連続で選ばれました。